

今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟
副会長 稲石 一雄

郡山での大会は二度目ですが、私にとっては思い出深い土地です。前回で教職員大会にデビューしました。「30歳以上」からですので、遅いデビューです。某スポーツドリンクが売り出された頃であり、体育館のロビーで自由に飲ませてくれました。またリバースピンサービスが使われ始めた頃なので、サブアリーナで他県の先生とゲーム練習した時に使ってみたりしました。この大会での経験が生徒にフィードバックして行くことを実感したものです。

今回も開会式及びレセプションに綿貫会長と銭谷専務理事に出席していただき、競技に向けて士気が上がりました。また、品川萬里郡山市長から優勝者へ副賞をいただきました。

レセプションでは地元の伝統芸能「ひょっとこ踊り」が披露されました。綿貫会長が大盃を飲み干し、橋本県連盟会長がお面を被って踊り（堂に入ったものでした）大いに盛り上がりました。

今年は試合開始の前に、体育館で派遣審判員の方の表彰を行いました。今までも表彰はしていたのですが、本人に直接渡すだけでした。今回からは選手の皆さんにも知ってもらおうということで、この形を取りました。派遣審判員制度は他の連盟にはない方法です。全国から集まった審判員と地元の審判員が交流し、情報交換をしたり研鑽し合うことは審判に関するもののみならず、バドミントン全体の理解を深めることに役立つものと確信しています。今後とも皆さんのご協力をお願いします。

競技ではやはり地元福島の活躍が目立ちました。もともと一般男子団体で連覇をしていたので実力者が多くいるわけですが、団体戦、個人戦合わせて9種目でベスト4以上に進出し、4種目に優勝するという結果を残しました。総合成績も2位と気を吐きました。

一般男女単複とも新チャンピオンが誕生しました。上位には毎年名前が挙がる選手がいるとともに、接戦も多くなり層が厚くなったような気がします。年代別でも30歳以上男子は一般かと思紛うプレーも多くあり、勝ち上がることの困難さが伺われます。

女性の部では50歳以上の単複が増加しています。この傾向は今後も続くと思われれますので、60歳以上の部を作るなどの対策が必要かと思われれます。

最後になりましたが、今回の実施について福島県バドミントン協会、教職員連盟をはじめ、多くの関係者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。



綿貫会長と品川郡山市長



橋本会長とひょっとこ踊り



市長よりの副賞



市長よりの副賞



派遣審判員の方々